

ヘリコバクター・ピロリ菌検査

ヘリコバクター・ピロリ菌（ピロリ菌）は胃の粘膜に生息し、胃炎、胃潰瘍や胃がんなどの原因となる細菌類の一種です。ピロリ菌は一度感染すると多くの場合、除菌しない限り生涯持続感染します。慢性胃炎や胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃がんの主な要因であることが近年明らかになっています。

検査方法：

① 内視鏡検査	内視鏡検査で採取（生検）した胃の粘膜の組織で検査をします。便中検査同様、採取した部分にヘリコバクター・ピロリ菌が存在しないと偽陰性になる可能性があります。
② 尿素呼気試験法	診断薬を服用し、服用前後の呼気を専用の容器に集めて検査する簡便な方法です。 感染診断と除菌判定検査に有用です。
③ 便中ピロリ菌抗原検査	便を採取してヘリコバクター・ピロリ抗原を調べる検査です。感度、特異度は高く現在の感染の有無が分かるので除菌判定に有用ですが、便の採取部位により判定が偽陰性になる可能性もあります。
④ ヘリコバクター・ピロリ抗体検査 (血中・尿中)	採血した血液中（または尿中）のピロリ菌に対する抗体を調べることでピロリ菌へ感染を調べます。菌量が少ない場合でも有用ですが過去の感染でも陽性を示すので、除菌判定には不向きです。